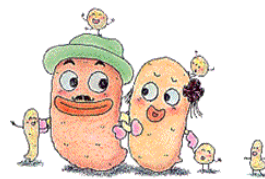


湯戸飛夜いけいけだよ



Jinen Joe family

発行 西徳山まちづくりの会

記事:

- ・あけましておめでとうございます
- ・西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南に出店
- ・戸田駅前クリスマス会を開催
- ・花いっぱい運動「花が咲き始めました」
- ・連載小説『涙に咲いた紫の菖蒲』その3
- ・第16回てくてくウォーク 西徳山ふるさとウォーク・夜市・戸田歴史散歩
- ・お知らせ

会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

連絡先:

(0834)63-3770
(神本)まで

あけましておめでとうございます

平成28年の新春を迎え、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平成9年6月14日に開催した第1回西徳山いけいけフェスタを契機に、平成10年7月に結成した私たち西徳山まちづくりの会も結成18年目を迎えました。

『楽しくなければ始まらない』をモットーに戸田駅前を活動の拠点として、戸田駅を中心として西徳山地域の活性化を考えてきたまちづくり活動もその範囲を広げてきました。

国道2号の拡幅に併せ道の駅ソレーネ周南が完成し、西徳山地区の新たな交流拠点となり、ヤマト運輸と提携した交通弱者でも農産物を道の駅に出荷できる仕組みで日本デザイン振興会主催の『グッドデザイン金賞』を受賞されるなど地域経済の活性化に向けた取り組みをされております。

西徳山まちづくりの会では、地域の交流拠点としての道の駅の活動を支援するだけでなく、西徳山地区の玄関口である戸田駅を花の駅にしようと、行政と連携しながら戸田駅前広場の環境美化に取り組んでいます。

少人口、高齢社会を迎えるにあたり、買い物難民問題や生きがいづくりなど、まちづくりの中で考えるべき課題は山積しています。自分たちでできることは自分たちで行い、行政にしかできないことは積極的に働きかけていく。私たちは、地域に住む住民として、皆が生き生きと暮らせる仕組みづくりを考え、行政に提案していきたいと考えております。

今年も西徳山まちづくりの会は、したたかにしなやかに活動を続けていきます。毎月第1水曜日には、夜市公民館で全体会を開催しています。自分たちの住む町は自分たちでつくっていくものです。まちづくりに興味のある方の参加をお待ちしています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

謹賀新年



申

西徳山まちづくりの会

西徳山いけいけ大収穫祭inソレーネ周南に出店



平成27年11月29日(日)、今年で2回目の開催となる「いけいけ大収穫祭」の会場で、「フランクフルト」「おでん」を出店しました。

「フランクフルト」は、鉄板で1本ずつ丁寧に焼き上げ、「おでん」は、地元で収穫した大根などを、十分に味付けしたホカホカの状態で販売したため、13時過ぎには完売し、お客さんも喜び、会員も秋のひと時を楽しく過ごせるという、充実した一日となりました。



「ソレーネ周南」は、日頃から多くの方が集まり、市民をはじめ多くの方が注目し、期待をしている道の駅です。私たちも、平成27年度は、5月の1周年祭、11月の収穫祭と、屋台の出店を通して、大いに盛り上げてきました。湯野・戸田・夜市の西部3地区の市民が一層身近に感じられる、また、周南市民が誇れる道の駅になっていけるよう、今後もイベントの際には会員全員で盛り上げたいと思います。ぜひ、イベントの際には屋台にお越しください。

(村リン 記)

戸田駅前クリスマス会を開催

平成27年12月12日(土)14時から戸田駅前広場で、“いけいけクリスマス会”を開催しました。会費2千円でまちづくりの会忘年会も兼ねての開催です。

13時前からバーベキューコンロの炭を熾し、新鮮な海産物(サザエ、イカ、魚)をたっぷり用意し、豚汁、ぜんざい、餅、むすびと料理もそろい、準備万端で14時の開店を待ちます。

天候のせい、日にちが悪かったのか会員の参加は11人と残念でしたが、夏のビアガーデンに参加された若いお父さんお母さんも子供連れで参加してくださいました。

美味しい海鮮バーベキュー、豚汁を食べながら、生ビールやジュースを片手に楽しい時を過ごし、16時に閉店しました。

またの来店をお待ちしています。(店主敬白)



「花が咲き始めました」 花いっぱい運動

今年は暖冬のおかげで戸田駅周辺の花々が早く咲き始めました。ビオラ、ノースポール、葉ボタンなど帰省される人たちにも楽しんでいただけたでしょうか…

「今年のビオラの色は青紫や白色が多かったね。来年は赤やピンク系を多くしたいね」と、早くも一年先を考えている私たちです。応援してくださいね。

(じゅんこ 記)



連載小説

『涙に咲いた紫の菖蒲』 その3



文 城山 耕作

【前号までのあらすじ】

壇ノ浦の戦に敗れた平家一門の山本泰盛は、命からがら落ち延びて、四郎谷の浜に上陸した。

そして、身を守るために山に向かって歩き始めた。一方、しずはこの上なく美しく、気立てのいい村長の娘であるが、ある時、父の松蔵の使いで隣村まで行った帰りに、行き倒れの山本泰盛に出会う。しずは放って置けずに声をかけるのであった。

「もしも、どうなされました。」

しずは優しく声をかけた。すると、ひどく疲れているように見えるその若者は薄目を開けて、

「いや、何でもなし。ちょっと休んでいただけだ。」と言って、気丈にも立とうとするが、足に力が入らないらしい。

しずは、役人から父への土産としてもらった都の珍しい菓子を取り出し、

「これを食べて元気を出してください。」とその若者に菓子を差し出した。

「おーっ、これは京の菓子、なんとつかしい。」と言って、一口食べ、しずが差し出した竹筒の水を喉に流し込んだ。

「あなたは、これが京の菓子というのがお分かりになるのですね。少しは元気におなりですか。」

「か、かたじけない。なんと礼をすればいいのか。」

「そんなことより、ずいぶんお疲れのご様子。我が家で少しお休みになられてはいかがでしょう。」

「いや、それには及ばぬ。気持ちはありがたく頂戴する。」

「でも、そのようなおぼつかない足取りでは、またすぐに倒れてしまわれましょう。ここはわたくしの言うことを聞いて、休んでいってください。いいえ休んでいかなければなりません。」

山本泰盛は、しずの案内で村の長である松蔵の家に向かうのであった。

松蔵の家族は親切である。松蔵をはじめ、妻のゆうも泰盛を温かく迎えた。温泉に入り、さっぱりとして出てきた泰盛は、まさしく都の貴公子であり、目元涼しい若武者であった。

食事を済ませ、少し落ち着くと、泰盛は

「このたびは、なんと礼を言っているのかわかりません。本当にかたじけない。何にも持ち合わせがないのでどうすることも叶いませぬが、せめてもの礼に、笛を吹いて差し上げましょう。」と言い、錦の袋から横笛を取り出して吹き始めた。その音色はなんと典雅なもので、松蔵・ゆう・しずは思わずうっとりとして、我を忘れてしまうのであった。そして、泰盛の吹く笛の音は、静かな村の春の宵に

響き渡った。

その笛の音は、泰盛をして、その頬に、また一筋の涙を流せしめた。都の生活を思い出し、この笛の来し方に思いを馳せた。

もともと、平敦盛と山本泰盛は、都のその名の知れた横笛の名手であり、幼い時より二人でその音色を競い合ってきた。二人の名を聞いた後鳥羽上皇は、院に二人を招いて、横笛の技を競わせたのである。それはいずれ劣らぬ妙技であり、後鳥羽上皇はこの上のない賛辞を二人に送り、平敦盛には小枝(さえだ)、山本泰盛には小篠(こしの)という笛をそれぞれに与えたのである。

そして、今吹いているその笛こそが、後鳥羽上皇から下賜された小篠そのものであった。

時代をさかのぼれば、京の町にはもう一人の笛の名手がいた。牛若丸である。

皮肉にも壇ノ浦の戦では、牛若改め源義経の戦術に為すすべもなく敗れたのである。

松蔵の家で、何日か過ごした泰盛は、いつまでも厄介になってはおれないという思いと、いずれ源氏の追手が探しにくるに違いないという惧れから、

「いつまでも厄介になってはおれませぬ。そろそろ暇をしなければ。」と松蔵に言うと、

「何があったかは存じませぬが、察するに当てのない旅だと思われます。家族で話し合ったのですが、いま少しここにどまったほうがいように思われます。ちょうどこの奥の苔谷というところに、私共の百姓小屋があります。めったに人も来ないので、そこでしばらく過ごしてみたいかがでしょう。」と言う。

ゆうもしずも異口同音に

「そうさいませ。食べ物は何日かに一度私共がお持ちいたします。きれいな山水も湧いています。お湯にして体も洗えます。是非そうさいませ。」とあまりにも勧めるので、行く当てなどない泰盛は、

「それでは、その苔谷という所にしばらく留まることにしよう。」

「お名前はまだ伺ってはおりませぬが、仙蔵さんと呼ばせてもらうことにしましょう。」と松蔵。

「もうひと月もすると、仙蔵さんが過ごされる百姓小屋のそばの池には、それはきれいな紫の菖蒲が、見事に咲きます。楽しみにしておいてください。」としずは嬉しそうに仙蔵こと山本泰盛に話して聞かせるのであった。



つづく

西徳山まちづくりの会

編集後記

長門市から「ごんごち防災塾」のご一行が戸田公民館に来られました。目的は道の駅ソレーネ周南の視察と戸田地区の自主防災組織の取り組みについての研修でした。ごんごちとはおばけとか妖怪の類で、このあたりでも一般に通用しています。

防災のみならず街づくりにも興味があるとのことで、私が西徳山まちづくりの会の取り組みについて説明をしました。わずかな時間で、充分説明できたのか、いささか疑問です。それでもみなさん真剣に聞いてくださり、メモを取る人もいて、とても関心を示していただきました。

私たち西徳山まちづくりの会も18年目を迎え、まちづくり活動では円熟味を増しています。まちづくりの老舗らしく味のある活動をしていきたいものです。

長門市といえば、金子みすず。周南といえば、まどみちお。どちらも有名な童謡詩人です。今度はこちらから長門市にお邪魔して、交流をしたいと思います。

発行責任者

会長 神本康雅
広報部長 木曾裕子

西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

第16回てくてくウォーク

西徳山ふるさとウォーク・夜市・戸田歴史散歩

平成27年10月25日、秋晴れのウォーキングには絶好の空の下、老若男女25人が元気よく戸田駅を出発しました。

今回は、「山陽道を歩こう会」を主催されている西村修一さんのご案内で、見どころや街道の歩き方、旧山陽道にまつわるお話などを聞かせていただきながら、夜市・戸田をぐるり散歩しました。



の心のこもった美味しいお弁当を開き、眼下に広がる戸田の風景を眺めながら、和気あいあいの一時を過ごしました。

午後からは辻地蔵、旧山田家跡地、ぽんぽん岩を巡り、道の駅ソレーネ周南で本日は解散としました。

西村さんの興味深いお話と多人数での街道の歩き方などご指導いただき、疲れしらずの楽しい「てくてくウォーク」となりました。

次回は平成28年1月24日(日)に「西徳山海岸めぐりコース」を開催予定です。

皆さん ぜひ一緒に郷土を楽しく歩いてみませんか？

参加ご希望の方は、西徳山まちづくりの会てくてくウォーク担当 國澤(0834-83-2762)までご連絡下さい。



夜市は、夜市七不思議を中心に旧街道を歩きました。

江戸時代の参勤交代のお話や古(いにしえ)の人々の旅や暮らし等西村さんから様々な話を聞き、先達の人々のロマンに思いを馳せました。

赤坂峠から戸田に入ると、当時茶店があったとされる“腰掛茶屋”跡を見学し、丸山公園の山登りでひと汗かき、桜田八幡宮で、「ひとめぼれ」

お知らせ

西徳山まちづくりの会の全体会

原則として毎月第1水曜日の19:30から夜市公民館で開催します。興味のある方は遠慮なくご参加ください。

戸田駅前花壇の手入れ

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。お手伝いしていただける方、大歓迎です。